

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	わいわいプラス相模原教室		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 1日		～ 令和7年 12月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17人	(回答者数) 11人
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 1日		～ 令和7年 12月 日1
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 22日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりの気持ちや状態を尊重し、無理のない関わりを大切にすることで、お子様が安心して自分らしく過ごせる環境を整えている。	その日の気分や体調、興味関心に応じて活動内容や関わり方を柔軟に変え、無理なく参加できるよう配慮している。	外部の専門家の意見を活用し、個別性の高い支援により適切に対応できる体制づくりを進めていきたい。
2	大人が先回りして決めるのではなく、子供自身の考えや選択を尊重しながら関わることで、主体的な行動や意欲につながっている。	成功体験を積み重ねられるよう、役割分担や難易度を調整し、達成感を得られる機会を意識的に作っている。	研修や事例検討を通して、子ども達の理解を深め、多様な特性に対応できる力を養っていきます。
3	行事や外出、創作活動など、楽しみながら学べる経験を多く取り入れ、社会性や自己肯定感を育む支援を行っている。	子供の気づきや関わり方を職員同士で共有し、継続性のある支援につながるよう日々の連携を大切にしている。	活動内容の話し合いや準備段階から子供が関われる場面を増やし、主体性や協調性を育む機会を広げていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	お子さまによっては、より専門的な知識や視点が必要と感じる場面があり、今後さらに支援の幅を広げていく必要があります。	お子さま一人ひとりの支援を大切にする中で、専門性の高い支援を学ぶ時間を取ることが難しい状況があります。	外部の専門家や関係機関の意見を聞きながら、お子さま一人ひとりにより合った関わりができるよう整えていきます。
2	日々の支援を大切にする一方で、スキルアップの時間を十分に取ることが難しい状況もあり、より良い形を模索しています。	日々の支援を優先する中で、職員が十分に学ぶ時間を確保しにくい状況があり、より取り組みやすい方法を検討しています。	オンラインなども活用し、支援の質を高めるための学びを継続していきます。
3	保護者の方同士が関わる機会が限られており、情報交換や気持ちを共有できる場を増やしたいと感じている。	お仕事やご家庭の都合により、集まりへの参加が難しい方も多く、無理のない形を考える必要があります。また困りごとが少ない場合、交流の必要性を感じにくい事もあり、参加のきっかけ作りが課題となっています。	短時間やオンラインなど、参加しやすい形で保護者会や交流の機会を設け、つながりを感じられる場を少しずつ増やしていきたいと考えています。